

都市は劇場であり、劇場は都市である

劇場都市

vol.

11

2023

G

Takasaki Culture Event
Information Magazine
GEKIJOTOSHI

高崎市文化事業広報誌

公益財団法人
高崎財団
The Takasaki Foundation

都市は劇場であり、劇場は都市である

都市は、人生の喜怒哀楽が繰り広げられる舞台であり、都市そのものが劇場である
 そこで生まれる芸術文化は感動や創造性につながり、都市そのものを作っていく——
 「劇場都市」は、そこで生み出される文化芸術活動とそのドラマを紹介していきます

Contents

2 特集

高崎市民美術展覧会

市民活動から芽吹き、
 現在へ受け継がれる想い

Special Interview 1

吉田 光正

Special Interview 2

高崎北高校写真部が語る、市民展の楽しみ方

8 特別インタビュー

群馬交響楽団 常任指揮者

飯森 範親

12 公演情報

高崎芸術劇場

2023年度公演スケジュール〈2023.4-2024.3〉

群馬交響楽団 × 高崎芸術劇場

GTシンフォニック・コンサート

裏表紙 Meet The GSO

群馬交響楽団 楽団員インタビュー vol.11

首席ファゴット奏者 石川 了一

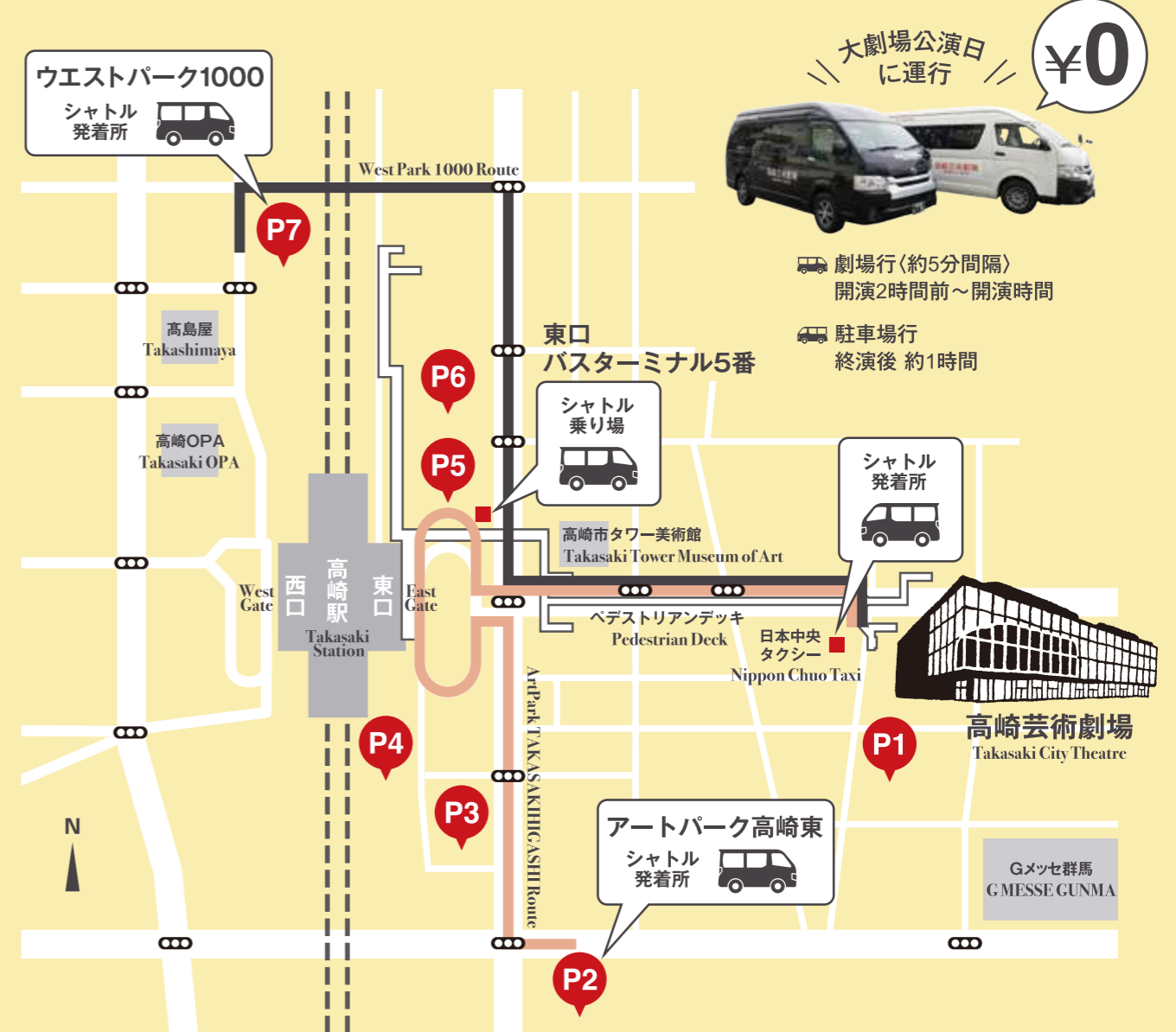


INFORMATION

高崎芸術劇場

近隣駐車場 & シャトルのご案内

高崎芸術劇場へお車でご来館の際は、近隣駐車場をご利用ください。『大劇場』での公演日には、劇場とアートパーク高崎東、ウエストパーク1000をそれぞれ往復する「高崎芸術劇場シャトル」を運行しています。アートパークルートは、高崎駅東口を経由します。ぜひご利用ください。



- | | | | |
|----------------------|--------------|-----------------------|-----------|
| P1 芸術劇場南駐車場 | 高崎市北双葉町1-3 | P5 LABI1立体駐車場 | 高崎市栄町1-1 |
| P2 アートパーク高崎東 | 高崎市双葉町1-12 | P6 ココパルク800 | 高崎市東町5 |
| P3 メディアメガ高崎 | 高崎市下和田町5-3-8 | P7 ウエストパーク1000 | 高崎市旭町34-1 |
| P4 高崎駅東口駐車整理場 | 高崎市八島町222 | | |

● 営業時間や料金など詳しくは、各駐車場にお問い合わせください
 ● 高崎芸術劇場に専用駐車場及び提携駐車場はありません

近隣駐車場・高崎芸術劇場シャトルについて、詳しくはWebへ▶





昭和54年10月

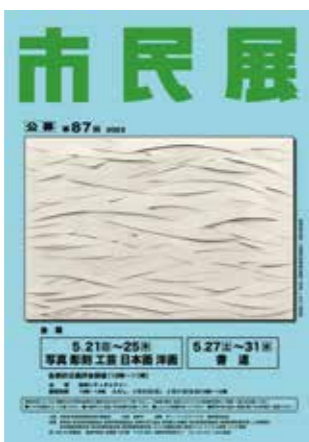
昭和51年11月

昭和42年11月

2	1
---	---

1.平成27年、第80回の開催は記念展として、第61～80回展のポスターを高崎シティギャラリー2階のアートインフォメーションコーナーに掲示

2.第87回のポスター。同展顧問・参与にはこれまでに、書道家の天田研石、瀧澤虚往、新井京華や彫刻家の吉田光正、工芸家の吉村晴子、洋画家の町田洋二、田中朝庸、島崎康夫といった、高崎市文化賞の受賞者が多数名を連ねる。



市民活動から芽吹き、 現在へ受け継がれる想い

2023年で第87回を迎える「高崎市民美術展覧会（以下、市民展）」は、市民文化の向上を目的とした市民発の公募展。先人たちの創作への情熱が脈々と受け継がれ、昭和の初めから現在まで続く展覧会は、高崎市民の芸術活動の歴史そのものであり、新たな時代の文化・芸術を育む土壌にもなっている。今号では市民展の歩みを振り返り、そこに関わる作家の想いを紹介する。

市民の芸術拠点で開催される 高崎市民美術展覧会

平成6年の開館以来、市民に愛され続けている「高崎シティギャラリー」。さまざまな展覧会などで利用されるこの施設は、市民の芸術活動の拠点として大きな役割を担う。市民展も毎年5月に開催され、高崎の初夏の風物詩ともなっている。

「美術に対する制作意欲と鑑賞力を高め、市民文化の向上を図る」ことを目的に始まった市民展は、昭和初期から続く歴史ある公募展。市民展という名称ではあるが、門戸は広く、市内に在住・在勤・在学の人や、出身の人などゆかりのある16歳以上の人であれば、誰でも出品することができる。部門は写真、書道*、彫刻、工芸、日本画、洋画とさまざま。応募された作品は全て展示されることも市民展の大きな特長の一つだ。

コロナ禍の影響がまだ残る昨年（令和4年）に開催された第86回展には合計677点の作品が展示。多くの市民が訪れて好評を博した。歴史ある市民展に出品される作品は多彩で、多くの力作がそろった。また、制作者同士の交流が生まれる貴重な機会ともなっている。

*書道：漢字、かな、墨象、少字数・近代詩文

市民展の草創期に迫る

市民展の歴史については、戦前の資

と記載があることから、現在の形式に近い市民展の開催が伺える。当時の名称は「総合美術展」であり、同協会設立時に当時の市長が関わっていたことや、作品を広く市民に周知して公募するために、高崎市との連携も図られるようになった。「高崎市民新聞（昭和32年10月27日付）」によると、「市民美術展」の名称は昭和32年の開催から使用。会場は旧中央公民館に移り、昭和59年に総合文化センターが完成した際に、現在の中央公民館で開催されるようになった。平成6年の第59回からは、毎年シティギャラリーで開催されている。

*昭和36年

市民発の文化活動が 高崎の文化を育む

市民展の歴史からも分かるように、昭和初期から続く高崎市民の文化活動は、非常に盛んなものであった。それは今も変わらず、高崎市民の気質として受け継がれているようだ。日本総合研究所による「全47都道府県幸福度ランキング2022年版」の中核市部門で高崎市は総合6位。特に文化活動などに関わるNPO認証数や姉妹都市提携数が多いことから、文化分野において非常に高い評価を受けている。全国に62ある中核市の中でも、高崎市は、文化的に成熟した都市で、長い歴史を持つ市民展は、こうした高崎の文化を象徴するものとも言える。

料がほとんど残されていないことから、正確なことは分かっていない。「新編高崎市史 通史編4」には「昭和7年12月、白樹社（はくじゅしゃ）のメンバーを中心とした高崎洋画協会創立。昭和8年3月に、九蔵町の大黒屋呉服ギャラリーで創立を記念した第1回の展覧会を開催している。（970ページ）」とある。「白樹社」は昭和4年に結成され、メンバーには高崎を代表する画家の山口薫、豊田一男、松本忠義ら、そうそうたる作家が名を連ねた。平成22年高崎市文化賞受賞者である洋画家の故・田中朝庸は、高崎市の市民展が初めて開催されたのは昭和10年前後と推察する。これらの記録や証言から、白樹社が開催した展示会が礎となり、現在の市民展へと発展していったものと考えられそうだ。

公募展として さらなる広がりを

第二次世界大戦が終わると、実業家・井上房一郎により、さまざまなジャンルの文化人による「高崎造形文化協会」が設立された。第1回目の展示は公募を行い、柳川町にあった「料亭 宇喜代」で開催したとされている。「昭和36年 概観 高崎市史」には「昭和16年10月、総合美術を通じ、市民の情操教育を推進する目的で、高崎造形文化協会を設け、事務所を市役所内（現在*は、市教育委員会社会教育課内）に置き、毎年秋季一回総合美術展を開催している。」

市民展の出品数は、第57回から増え続け、第73回には歴代最高出品数999点を記録。参加者の年齢は10代～90代までと幅広く、世代を超えて多くの市民の関心を集める展覧会となっている。

先人たちの情熱を受け継ぎ、鑑賞の場、あるいは出展の場として築き上げられてきた市民展。広く市民に門戸を開く独自の展覧会の在り方は、これからも高崎の文化・芸術を育む交流の場として次代へとつながっていく。



85回展の様子



吉田 光正
よしだ みつまさ

Special Interview 1

光正

- 略歴
- 1941年 高崎市に生まれる
 - 1963年 武蔵野美術学校(現大学)彫刻科卒
 - 1964年 第17回日本アンデパンダン展出品
 - 1968年 ブルガリア・ソフィア第9回世界青年学生平和友好祭日本代表団参加、同国際美術展出品
 - 1972年 「青年」文化庁全国選抜展出品
 - 1977年 自由美術展佳作賞(最高賞)受賞。78、79、80年にも受賞
 - 1985年 第36回県展「烈風の中で」山崎記念特別賞受賞
 - 1990年 自由美術展「母と子-わたす」平和賞受賞
 - 1992年 吉田光正彫刻作品集「石と語る」出版
 - 2006年 4月1日～11月15日 高崎城址公園、群馬音楽センター前などを会場に吉田光正野外彫刻展、石に命を吉田光正野外彫刻展作品集出版
 - 2008年 吉田光正映画「石と語る」(38分)完成
 - 2011年 高崎市文化賞受賞
 - 2012年 10月28日～12月6日、キューバへ。キューバ共和国在日大使館よりサンティアゴ・デ・クーバでの彫刻シンポジウムへの招待を受け参加。「生命の讃歌」(大理石、高さ3.5×2×1m)の作品を制作、永久設置
 - 2015年 1月16日～21日 高崎シティギャラリー 彫刻制作55周年記念・吉田光正彫刻展 彫刻60点・版画デッサン50点。20代から前年までの彫刻がトータルで見られるように展示(入場者700人)
 - 2016年 10月28日 群馬県功労者表彰受賞
 - 2017年 8月24日 東日本大震災復興記念モニュメント「未来の星」インド砂岩設置(福島県須賀川市長沼町北町防災記念公園)
- 現在、自由美術協会会員(審査員)日本美術会委員、群馬県美術会副会長、群馬芸術文化協会副会長、高崎市民美術展副運営委員長、群馬版画協会会員

第87回高崎市民美術展覧会の運営委員長であり、彫刻部門長を務めるのは、群馬県を代表する彫刻家の吉田光正さん。自身が彫刻を始めたきっかけと高崎での創作活動の経験、そして市民美術展覧会の思い出をお聞きしました。

彫刻家・吉田光正と高崎市民美術展覧会の出会い

私が高崎市民美術展覧会(以下、市民展)に出品し始めたのは、美術大学を卒業して、群馬県に帰ってきたばかりの1964年頃のことです。当時は

中央公民館の広い講堂を会場に、木の長椅子を積み上げ、幕を張って作品を並べているような状態でした。出展数は50点程、作家の作品も一般応募もありました。高崎えびす講市に協賛をお願いしたこともあって、えびす講市に並ぶ鍋や葉笛が賞品としてもらえたんですよ。

委員を務めながら出展するのも、今年で60回目になりました。ここまで長く開催され続けている展覧会は全国的にも珍しいと思います。

絵画を学びたどり着いた彫刻の世界

私は農家の出身で、美術を始めたのは高校の部活動の時でした。絵を描くのが好きで、父には反対されながら

会を重ね合わせ、困難な社会に立ち向かう人間への願いを込めて作りました。私は石を素材とした作品を好んで作りますが、自然の素材が持つたくましさや優しさ、これらの特長を生かして彫刻を作りたいと思っています。

市民展と高崎シティギャラリー市民活動が育んだ、文化と芸術の歴史

市民展は、しばらくの間中央公民館で開催されていましたが、展示会場の条件が悪く、次第に出展数は減っていききました。市内で活動する絵画や書道の作家の多くが、皆「展示する会場がない」と困っていたんですよ。そこで、親しい美術家仲間と一緒に、市内の作家にも呼びかけて、ギャラリーを作るための運動を始めました。市民が一体となって、音楽センターや美術館を使って講演会を開き、理想的なギャラリーの在り方について議論を交わしました。そこで出た多くの意見を吸い



上げて作られたのが「高崎シティギャラリー」です。市民運動から始まって設計された公共建築の完成に伴って、当時の市民展も大いに盛り上がりました。今もさまざまな催しの会場となっています。非常に使いやすく良いギャラリーだと作家からは好評で、他の地域に行くとき「高崎市は文化的で美術環境が整っている」とうらやましがられるほどです。作家が活動する上で、非常にありがたい環境が整っていますし、素晴らしい展示ができるギャラリーや美術館があることは、市民の皆さんにとっても、良いことだと感じています。

キューバに学ぶ! 理想的な暮らしと芸術の関わり方

芸術は感性を養う上で重要で、創造的な人づくりには必要不可欠な要素です。私は世界各国を訪れてきましたが、一番優れている国はキューバだと思っています。さまざまなことが理想的に実現されている国で、初めて訪れた時には本当に驚いたものです。キューバでは子どもたちがあらゆる職業を体験することができ、施設があり、ここでの体験を基に、自分の進路を選ぶことができます。他にも、医療費が全て無料だったり、老後の保障があったり、非常に暮らしやすい国で、農業の面でも進んでいて、日本から研修に行く人も多いそうです。私が最後に訪れたのは12年ほど前。

高崎市の文化と芸術

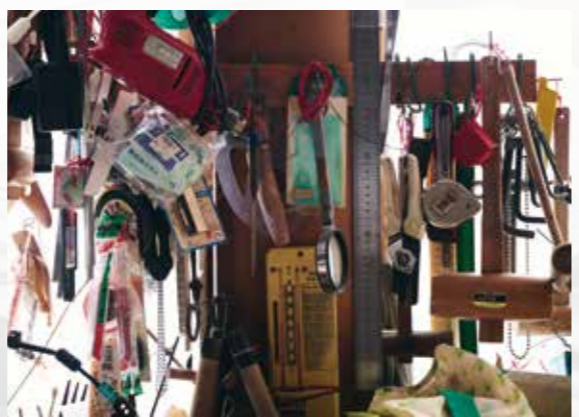


も母の理解を得て、武蔵野美術学校に入学。当時は西洋画科と呼ばれていた油絵科に入り、開館したばかりの国立西洋美術館で、ロダンやブリューデルの彫刻を見ていました。デッサンのために彫刻をたくさん鑑賞していると、次第に自分でも彫ってみたくなりました。三年生になると彫刻科へ転科して、家で油絵を描きながら、学校で

は彫刻の勉強を始めました。正直なところは、当時は自分が彫刻家になるとは思ってもみなかったですね。

彫刻の魅力と作品に込める思い

彫刻の魅力は、立体芸術ならではの強さ、そして触れながら鑑賞できる。触覚の芸術であることだと思えます。彫刻の歴史を振り返ると、どの作家もその時代に生きた人々を彫っていて、非常に社会的に重要な役割を果たしていることが分かります。ですから、私も現代に生きる人々、特に「明日に向かって前向きに生きる人間」を表現したいと作品制作をしています。例えば、前橋市にある「北風」という母子像は、上州のからっ風と現代社



作品制作の依頼を受けたときのことです。出発の前日に現地がハリケーンに見舞われたことから渡航が危ぶまれる、というトラブルもありましたが、最後のチャンスだと思って向かったんです。滞在時には、芸術大学のアトリエで作品を制作しながら学生と交流する機会をいただきました。大学の定員は20名。学生はデザインから油絵、陶芸、古美術の修理までさまざまなことを学びます。40日間の日程の中で、彫刻のアトリエに生徒2人が来てくれて指導するとともに、自分の作品を制作しました。

第87回市民展の開催に向けて

「人生100年時代」と言われる今、健康に長生きするためには人生の目標を持つことが大事だと思います。目標を持って活動している人は、やはり元気に長生きする人が多いですね。芸術を鑑賞し、創作することは、精神を整え「生きる糧」を与えてくれます。

市民展は参加条件を満たせば、誰でも自由に作品を応募できる展覧会ですから、ぜひ多くの方に参加してい

ただきたい。趣味で創作活動をしている人も、ギャラリーに飾ったり、他の人の作品と比べたりすることで、客観的に自分の作品を見つめ直すことができます。プロの作家から、アドバイスをもらえる機会にもなります。

また、市民展にはいくつかの賞があります。賞をもらう経験というものはすごく嬉しいもので、皆さんにも体験してほしい。賞の獲得が目標となって努力することもできます。こうした展覧会があることは芸術活動において重要なことだと感じます。戦前の作家たちが生み出した芸術の流れが、今日の高崎市の文化や芸術環境を作っています。全国的に見ても芸術のレベルが高く、市民活動も盛んな高崎市の市民展。ぜひ多くの方にご参加いただければと思います。

作品募集



第87回 高崎市民美術展覧会

期 間	5/21(日)~25(木) 写真・彫刻・工芸・日本画・洋画 5/27(土)~31(水) 書道 ※5/26(金)は休会のため、作品の観覧はできません
会 場	高崎シティギャラリー
応募資格	市内に在住か在勤、在学、出身、勤務したことのある16歳以上の人
出 品 数	各部門1人1点で未発表のもの。題名は20字以内
費 用	1点につき2,000円(16~18歳は1,000円)
規 格	写 真 カラー、白黒ともに半切またはA3サイズにプリントし、アルミ類(外寸43cm×52cm以内)に額装する。指定寸法より大きい額は不可 書 道 たて、よこ作品ともに45cm×90cm以上で、たて作品は243cm×61cm以内、よこ作品は91cm×91cm以内または182cm×61cm以内。いずれも表装し、仮巻きは不可 彫 刻 特に制限なし 工 芸 平面作品は6号以上とし、立体作品は特に制限なし 日本画 40号(100cm×80.3cm)以内で額縁を使用。ただし20号以上は仮縁とする(いずれの大きさもガラスの使用は不可だが、アクリルの使用は可とする) 洋 画 40号以内で額縁を使用する。ただし20号以上は仮縁とする(いずれの大きさもガラスの使用は不可だが、アクリルの使用は可とする)

【開催要項の配布場所】

高崎市役所7階文化課、高崎シティギャラリー、箕郷文化会館、新町文化ホール、榛名文化会館、吉井文化会館、高崎市各支所地域振興課、各市立公民館 ほか

【申し込み】

開催要項にある申込書に費用を添え、作品とともに5/18(木)14:00~18:00に高崎シティギャラリーへ。16~18歳の人は、学生証など本人確認のできる物のコピーを添付すること

【問い合わせ】

高崎市文化課(TEL.027-321-1203)



Special Interview 2

高崎北高校写真部が語る、 市民展の楽しみ方

創部以降、高崎市民美術展覧会に参加している高崎北高校写真部。作品出展や受賞の経験のある部員を中心に、市民展の魅力や写真への想いをインタビューしました。

——高崎市民美術展覧会(以下、市民展)へ参加したきっかけを教えてください。

横田さん(3年生) 顧問の先生に美術部が作品を出展していると聞いたことがきっかけです。誰でも応募できる展示会と聞いて挑戦しようと思いました。

——普段の撮影で気を付けていることや考えていることはありますか。

浦野さん(3年生) 私は人物を撮影することが好きで、写真をあとで見返した時に「撮影の時にこんなことがあったな」と、出来事を振り返れるような撮影を意識しています。

——「写真の楽しいところ」とは、どんなシーンでしょうか。

横田さん(3年生) よく聞く言葉ですが「カメラが一瞬を切り取るところ」です。「こんな写真を撮りたい」と想像するのは簡単ですが、想像通りの写真を撮るのは難しいですね。撮影する一瞬の中で、構図や露出、シャッタースピードなど、さまざまな条件を調整するところが面白いと思います。

田村さん(3年生) 私はよく動物の写真を撮りますが、あくびの瞬間を捉えたり、走っている瞬間の面白い顔を



▲第86回高崎市民美術展覧会 特選 「夏のカップル」 浦野 遥さん



▲第85回高崎市民美術展覧会 群馬県教育長賞 「桜空へ!!」 横田 一真さん

写せたりすると楽しさを感じます。

高田さん(2年生) 僕は「部活で写真撮影をすること」が楽しいです。皆で写真を撮ると分らないこともすぐに聞けて技術も上達しますし、コミュニケーションを取りながら撮影すると気持ちに乗って、いい写真が撮れるような気がします。

——市民展を訪れてみて、会場の雰囲気はどうでしたか。

横田さん(3年生) 高校生の作品は少なく、多くは大人が制作した作品が展示されていました。普段参加する高校生がメインのフォトコンテストとは違った雰囲気を感じましたね。また、

——参加者や部活の後輩へメッセージをお願いします。

横田さん(3年生) 多くの写真展では賞を取った作品しか展示されませんが、市民展は応募作品が全て展示されるので、色んな人に作品を見てもらえる良い機会です。高崎シティギャラリーという素晴らしい会場に、自分の作品が展示されるチャンスを活かしてほしいと思います。

カメラの経験が長い人の「撮影技術を使いこなした作品」や「長年の経験から考え出された構図の写真」を見ることはとても勉強になりました。

浦野さん(3年生) 家族で市民展に行きましたが、私が出した作品と大人が作る作品とは、視点や切り取り方が違うことに驚きました。私の作品を見てくれた人が「面白いね」とコメントしてくれてうれしかったです。

——市民展へ参加した感想や次回への意気込みを聞かせてください。

佐藤さん(2年生) 昨年の市民展では、卒業式の時に3年生が黒板アートを描いてくれたときの様子を撮りました。今回の市民展に向けては、春休み中に桜をテーマにした写真を撮り、季節感のある作品を作れたらと思います。



▲第46回全国高等学校総合文化祭東京大会 写真部門 最優秀賞(文部科学大臣賞) 「マスクの中の表情は」 田村 南海さん

浦野さん(3年生) 市民展は、私が初めて写真の賞をいただいたコンテストでした。入賞のいかんを問わず展示してもらえるので、初心者の方も果敢に挑戦してほしいです。

田村さん(3年生) 高崎北高校の写真部から入賞者が出ているコンテストなので、私も賞に向かって挑戦し、自分の自信につながるような作品を作りたいと思います。

群馬交響楽団 常任指揮者

飯森 範親

Norichika Imori

オーケストラは
伝統の上にあぐらをかいていたら続かない
さらなるブラッシュアップ、そして挑戦

120%の満足を目指して。

山形交響楽団や広島交響楽団といった地方オーケストラを「魅力あるオーケストラ」へと導いてきたマエストロ、飯森範親氏。

2023年4月から群馬交響楽団の常任指揮者に就任する。

高崎芸術劇場を拠点とした群馬交響楽団との活動や自身の意気込みについて語ってもらった。



高崎芸術劇場での就任会見(2022.10.21)

本拠地を高崎芸術劇場に移して5年目となる2023年。群馬交響楽団は、この4月から常任指揮者に飯森範親氏を迎えて新時代の幕を開ける。飯森氏は、国内外で活躍するマエストロ(名指揮者)。多くのオーケストラとの間に類いまれな信頼関係を築き上げてきたことでも知られる。群響常任指揮者就任のオフアワーを快諾した。「高崎芸術劇場のように、リハーサルも本番と同じホールでできるオーケストラは全国的に見てもほとんどない。このような最高の場所で作らせていただけなんです。引き受けない理由はないですよね」。

また、母方のルーツが群馬であることにも言及。幼い頃に親戚の家に泊まりに行つて、カプトムシやクワガタを獲った思い出があるそうだ。「緑のある群馬でこれから皆さんと音楽で一緒にできる、こんな幸せなことはないと思っています」と目を細める。

高崎芸術劇場は群響にとって宝物

高崎芸術劇場で初めて飯森氏が指揮をしたのは、2022年5月に開かれた群馬交響楽団の定期演奏会だ。どのような印象を抱いたのだろうか。「高崎芸術劇場は、群響にとって『宝を得た』と言っても過言ではないでしょう。響きの良いホールでの練習

はオーケストラがうまくなっていく上でとても重要です。響きの中から他の楽員の音をちゃんと意識して聴くという習慣が大事。常に研ぎ澄ました耳を働かせて練習することが大切です。ですから、大劇場で練習ができるということは、とても恵まれていることなんです。今後、練習・本番を積み重ねることで、さらに音色の研ぎ澄まされた素晴らしいオーケストラになっていく」と期待を膨らませる。また「群響の演奏を大劇場で録音したいので、近い将来実現できるよう考えています。リハーサル、ゲネプロ、本番と録音できれば、かなり良いCDが仕上がる」とCD制作にも意欲的だ。

音楽との出会い指揮者を志したきっかけ

0歳の時に母に抱かれて初めて訪れたコンサートで、交響曲の大きな音でも全く泣かずに寝ていたというエピソードを持つ飯森氏。

「家には、父の仕事の関係でクラシックのレコードがたくさんあり、幼少期から音楽にかなり関心を持つことができたのです。チャイコフスキーのピアノ協奏曲を聴いて興味が湧き、3歳頃からピアノを始めました。そして、小学校4年生の時に、ユーージン・オーマンディ指揮のボレロを聴いて、『僕、これを指揮してみたい』と

言ったのが指揮者を志したきっかけです」。幼少期から音楽がごく身近にある環境の中で、自然とその素養は育まれていった。「祖父はチェリストを目指していて、大学時代には大阪フィルの朝比奈隆先生と同期で一緒に活動をしていたんですよ。また、親戚に『ゲゲの鬼太郎』を作った作曲家・いずみたくがいます。こういった音楽に関係する身近な人たちから、自然と影響を受けていたのかもしれない」。

地域に根付くオーケストラその魅力をさらに高めたい

群響については、「常に新しいことに意識が向いている、地域に根付いた、非常に優れたオーケストラ」と評する。その上で「さらなるブラッシュアップを」と考えた時に何が必要なのか。まずは「楽員の皆さんに意見を聞いたほうが良い」と思い、率直な意見交換の場を設けた。これを契機に、群響のメンバーが求めている内容を少しずつプログラムに加えていくことを考えた。「皆さんのモチベーションも高めていけたら、と思っています」。

群響の飛躍を見据えたこだわり抜いたプログラム

オーケストラは魅力が無いと注目されない。魅力というのは「さまざまな



群馬交響楽団 2023-2024シーズン定期演奏会

【全公演共通】高崎芸術劇場 大劇場 16:00開演(15:00開場)

前期シーズン チケット発売中

第587回 常任指揮者就任披露演奏会

4/22(土)

飯森範親(指揮)、三浦文彰(ヴァイオリン)*
 [曲目]
 モーツァルト/交響曲 第1番 変ホ長調 K.16
 ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 Op.77*
 R.シュトラウス/交響詩《英雄の生涯》Op.40, TrV 190
 (ヴァイオリン・ソロ/伊藤文乃(群響コンサートマスター))



飯森範親 三浦文彰

第589回

6/24(土)

秋山和慶(指揮)、上野通明(チェロ)*
 [曲目]
 モーツァルト/交響曲 第31番 二長調 K.297「パリ」
 ラロ/チェロ協奏曲 二短調*
 ベルリオーズ/幻想交響曲 Op.14



秋山和慶 上野通明

第588回

5/27(土)

高関健(指揮)
 原田節(オンド・マルトノ)*
 児玉桃(ピアノ)*
 [曲目]
 モーツァルト/交響曲 第32番 ト長調 K.318
 メシアン/トゥランガリラ交響曲*



高関健 原田節 児玉桃

第590回

7/22(土)

角田鋼亮(指揮)、中江早希(ソプラノ)*
 [曲目]
 コダーイ/ガランタ舞曲
 モーツァルト/エクスルターテ・ユピラーテ(踊れ、喜べ、幸いなる魂よ)*
 マーラー/交響曲 第4番 ト長調*



角田鋼亮 中江早希

中期シーズン 6/1(木)チケット発売

第591回

9/17(日)

飯森範親(指揮)、森谷真理(ソプラノ)*
 富岡明子(メゾソプラノ)*
 村上公太(テノール)*、平野 和(バリトン)*
 群馬交響楽団合唱団(合唱指揮:阿部 純)
 [曲目]
 モーツァルト/レクイエム 二短調 K.626 から
 “ラクリモーサ”
 ヴェルディ/レクイエム*



飯森範親 森谷真理 富岡明子



村上公太 平野 和

第592回

10/28(土)

井上道義(指揮)、仲道郁代(ピアノ)*
 [曲目]
 モーツァルト/ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488*
 ショスタコーヴィチ/交響曲 第4番 八短調 Op.43



井上道義 仲道郁代

第593回

11/25(土)

ポール・メイエ(指揮・クラリネット)*
 西川哲也(クラリネット、群響首席奏者)*
 [曲目]
 モーツァルト/交響曲 第38番 二長調 K.504「ブラハ」
 メンデルスゾーン/コンチェルト・シュトゥック 第1番*、第2番*
 ミカエル・ジャレル/ドビュッシーによる3つのエチュード
 ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲《展覧会の絵》



ポール・メイエ 西川哲也

後期シーズン 10/2(月)チケット発売

第594回

2024/1/27(土)

小林研一郎(指揮)、金川真弓(ヴァイオリン)*
 [曲目]
 モーツァルト/ティヴェルティメント 二長調 K.136
 シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47*
 ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 Op.98



小林研一郎 金川真弓

第595回

2024/2/24(土)

大井剛史(指揮)、金子三勇士(ピアノ)*
 小林海都(ピアノ)*
 三橋敦(打楽器、群響首席奏者)*
 山本貢大(打楽器、群響奏者)*
 [曲目]
 モーツァルト/セレナード 第13番 ト長調 K.525
 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
 パルトーク/2台のピアノと打楽器のための協奏曲*
 ドヴォルジャーク/交響曲 第3番 変ホ長調 Op.10



大井剛史 金子三勇士 小林海都



三橋敦 山本貢大

第596回

2024/3/23(土)

飯森範親(指揮)、ジャン・チャクムル(ピアノ)*
 [曲目]
 モーツァルト/ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466*
 ブルックナー/交響曲 第9番(コルス訂正版)



飯森範親 ジャン・チャクムル



ニーズに応えることに尽きる」。そのためにはスキルアップが必要だと考えている。楽員との意見交換の結果を踏まえて、2023年度のシーズンプログラムは4つのテーマを掲げて構成された。

1つ目は「多彩なプログラム」。小編成から大編成、古典から現代、名曲から珍曲など、多彩なプログラムミックスと多様な楽器のソリストを起用。その中でも、オンド・マルトノという珍しい楽器のソリストが出演する5月、そして10月に演奏する交響曲は、日本でも演奏される機会が少ない曲とのことで、ぜひ注目したい。

2つ目は「全公演でのモーツァルト作品の演奏」。これは飯森氏が最もこだわったポイント。経験上、楽員の技術向上にも効果的なのだそうだ。

「モーツァルト作品は、ありとあらゆるオーケストラ音楽の基本になります。古典を演奏することによってオーケストラの音色が格段に良くなり、透明感が出ます。音程感覚にもシビアに

なり、ロマン派や近現代の作品にも生かされます」。すぐに劇的な変化を感じることができるといいます。また聴き手の醍醐味について「ピアノ協奏曲も含めて幅広いジャンルの作品を選びました。各演奏会の指揮者やソリストのそれぞれの『モーツァルト像』も楽しみにしていただきたいと思います。私も自身のアプローチでやってみたくて思っています」と話す。多彩なモーツァルトを聴き比べることができるのも今シーズンならではである。

3つ目は「楽員ソリストの起用」。群響のメンバーをソリストに選び、楽員の認知度向上と個々の楽員の更なるレベルアップを図る。4月、11月、2024年2月に登場予定だ。

4つ目は「若手ソリストの起用」。コンクール入賞歴等のある若手の起用により、次世代の音楽家たちに活躍の場を提供する役割を担う。「将来、世界的な活躍が期待される彼らの若かりし頃、群響との演奏を聞いたという体験を聴衆の皆さんにも共有して欲しい」。そんな思いがある。

120%の満足を目指す魅力あるオーケストラに

飯森氏は、群馬の森で行われる野外公演「森とオーケストラ」にも出演予定だ。劇場での演奏会にとどまらず、市民イベント等への参加にも意欲を示している。

している。そこにはどんな思いがあるのだろうか。

「『こうあるべきだ』という枠にとらわれず、いろいろなことに率先して参加して、市民の皆さんに知っていただく機会を持ちたいと思っています。自ら指揮棒を振ることで、市民の皆さんとの信頼関係を築くことにも繋がるのではないかと考えています。伝統の上にあぐらをかいていたら絶対に続かない。全国のどこの楽団も『今何ができるか』ということを必死に模索し始めている。ですから、群響も他県からも多くの人たちに足を運んでいただくような、そんな魅力あるオーケストラになるために、挑戦していこうと思っています」。

さらに、演奏会の在り方についても言及する。

「主催者とオーケストラ、そして聴衆の皆さん。この三者が満足することをいつも考えています。7〜8割の満足度を常に心がけていると、『今回は120%いったね』ということが時々あります。それを最終的に目指しています。誰の満足が欠けても演奏会はいままでかいたとは言えない、そういうスタンスです」と言っています。

高崎市の皆さんへ

最後に、高崎市の皆さんへメッセージ

ジをお願いした。

「今まで他のオーケストラでさまざまな取り組みをしてきました。群響でも『こんなこともやってるの?』と興味深く感じてもらえるようなことをたくさん提供して行きたいと思っています。ぜひアンテナを張っていただき、群響がやり出すことに興味を持っていただけたらうれしいです」。

常任指揮者就任披露演奏会(第587回定期演奏会)は4月22日。ぜひ、多くの皆さんに、飯森氏率いる新たな群響のステージを体感してもらいたい。



飯森範親/いいもりのりちか

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音するとともに、日本ツアーを成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を持ち、専属指揮者、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビュー。2006年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、2007年より山形交響楽団音楽監督に就任し、そのエネルギー活動は高い評価を受けている。現在、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2023年4月より群馬交響楽団常任指揮者に就任。

◆出演予定の定期演奏会
 第587回 4/22(土)
 第591回 9/17(日)
 第596回 2024/3/23(土)

◆チケット料金
 全席指定
 SS席 6,500円 S席 5,500円
 A席 5,000円 B席 4,000円 C席 3,000円
 ※SS席は群馬交響楽団事務局のみ取り扱い

◆群馬交響楽団プレイガイド
 ・群馬交響楽団事務局
 Tel.027-322-4944(平日10:00~18:00)
 ・高崎市施設プレイガイド
 ・チケットぴあ
 http://t.pia.jp
 ・群響オンラインチケットサービス
 (右記QR)



※出演者・曲目等は変更になる場合がございます ※演奏中の入場・再入場はできません ※未就学児の入場はご遠慮ください

GTシンフォニック・コンサート

群馬交響楽団と高崎芸術劇場がタッグを組み、2022年に始動した演奏会シリーズ「GTシンフォニック・コンサート」。5公演いずれも大劇場を埋め尽くすお客様を迎え、好評を博しました。2023年度の6公演も“クラシック”と“ポピュラー”の2スタイルで、幅広い世代にお楽しみいただけるよう、趣向を凝らしたプログラムをお届けします。豊かな響きを誇る音響空間で、ダイナミックな“群響サウンド”をご堪能ください。

vol.1 ザ・ベートーヴェン1

2023 4/8[土] 14:00開演 (13:00開場)

指揮: **大友 直人** Naoto Otomo (高崎芸術劇場 芸術監督)

ピアノ: **清水 和音** Kazune Shimizu

【曲目】オール・ベートーヴェン・プログラム
交響曲 第1番 ハ長調 Op.21、ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 Op.37*
交響曲 第7番 イ長調 Op.92

【チケット】好評発売中

vol.2 ザ・モーツァルト

2023 7/29[土] 14:00開演 (13:00開場)

指揮: **飯森 範親** Norichika Iimori (群馬交響楽団常任指揮者)

ヴァイオリン: **アイレン・プリッチン** Aylen Pritchin

フルート: **上野 由恵** Yoshie Ueno

ハープ: **吉野 直子** Naoko Yoshino

【曲目】オール・モーツァルト・プログラム
ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219「トルコ風」*
フルートとハープのための協奏曲 ハ長調 K.299 (297c)**
交響曲 第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

【チケット発売】 Web 4/7(金) 電話 窓口 4/8(土) ※群馬交響楽団事務局は4/10(月)から

vol.3 宮川彬良のオーケストラ・パントマイム

2023 9/22[金] 19:00開演 (18:00開場)

指揮・企画: **宮川 彬良** Akira Miyagawa

黒猫(ピッチカート): **宮川 安利** Ari Miyakawa ほか

【曲目】メリー・ポピンズ・メドレー、奥さまは魔女、コーラスライン、トルコ行進曲、ファンタジア・メドレー ほか

【チケット発売】 Web 4/7(金) 電話 窓口 4/8(土) ※群馬交響楽団事務局は4/10(月)から

vol.4 ザ・ベートーヴェン2

2023 11/3[金・祝] 14:00開演 (13:00開場)

指揮: **大友 直人** Naoto Otomo (高崎芸術劇場 芸術監督)

ヴァイオリン: **戸澤 采紀** Saki Tozawa

ピアノ: **小林 海都** Kaito Kobayashi

【曲目】オール・ベートーヴェン・プログラム
ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61*
ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 Op.73「皇帝」**

【チケット発売】 Web 8/18(金) 電話 8/22(火) 窓口 8/23(水)

vol.5 オペラ・ガラ・コンサート

2023 12/21[木] 18:30開演 (17:30開場)

指揮: **沼尻 竜典** Ryusuke Numajiri

テノール: **宮里 直樹** Naoki Miyasato

ほか ソリスト、プロ合唱団調整中

【曲目】イタリア・オペラ・ガラ
ブッチェーニ/歌劇《ラ・ボエーム》から ほか

【チケット発売】 Web 8/18(金) 電話 8/22(火) 窓口 8/23(水)

vol.6 映画音楽名作選

2024 3/9[土] 14:00開演 (13:00開場)

指揮: **竹本 泰蔵** Taizo Takemoto

ご案内役: **笠井 信輔** Shinsuke Kasai (フリーアナウンサー)

【曲目】交響組曲「レ・ミゼラブル」から
映画「カサブランカ」(映像つき) ほか

【チケット発売】 Web 12/8(金) 電話 12/12(火) 窓口 12/13(水)

チケット料金

高崎芸術劇場 大劇場

1回券 全席指定(税込)

S席 5,000円(U-25 2,500円)
A席 4,000円(U-25 2,000円)
B席 3,000円(U-25 1,500円)

※未就学児はご入場いただけません
※U-25料金は、公演当日25歳以下の者が対象です。当日年齢の分かる身分証明書をご持参ください
※車椅子・介助席のご購入は、高崎芸術劇場チケットセンターまで電話でお申し込みください
※出演者・曲目はやむを得ない事情により変更になる場合がございます

6回通し券 全席指定(税込)

S席 24,000円 A席 19,200円
B席 14,400円

※6回全ての回を同じ席で鑑賞できます ※U-25料金の6回通し券はございません
※1~6列目は、販売しない公演もあるため通し券の対象エリア外となります
※取り扱いは、群馬交響楽団(電話・窓口)、高崎芸術劇場(電話)です
※高崎芸術劇場での通し券Web購入は、2/16(木)18:00まで終了しました

発売中
4/8(土)
14:00まで

チケット取扱い

24時間受付 受付開始日の10:00~

Web 群馬交響楽団 チケットオンライン 高崎芸術劇場 メンバーズ (登録受付中)

10:00~18:00
群馬交響楽団事務局 027-322-4944 (土・日・祝休)
高崎芸術劇場チケットセンター 027-321-3900(無休)

群馬交響楽団事務局(高崎芸術劇場3F) 土・日・祝休
高崎市施設プレイガイド(窓口発売日の10:00~)
高崎芸術劇場(2Fチケットカウンター) 無休 (10:00~18:00)
群馬音楽センター 月休 (8:30~17:15) 高崎市文化会館 月休 (8:30~17:15)
高崎シティギャラリー 無休 (8:30~17:15)
箕郷文化会館・新町文化ホール・榛名文化会館・吉井文化会館 月・火休 (8:30~17:15)
高崎市倉渚支所(地域振興課)・高崎市群馬支所(地域振興課) 土・日・祝休 (8:30~17:15)

音響く街 楽奏でる街

高崎芸術劇場 2023年度公演スケジュール〈2023.4-2024.3〉

大劇場

- 4月13日(木) billboard classics 玉置浩二 LEGENDARY SYMPHONIC CONCERT 2023 “Navigatoria”
- 5月23日(火) セキスイハイム presents ヴァンクリー・ペトルニコ指揮 ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団 ピアノ: 辻井伸行
- 6月20日(火) パレルモ・マッシモ劇場 G.ヴェルディ『椿姫』
- 11月7日(火) ボローニャ歌劇場『トスカ』
- 12月 ブルーノート東京オールスター・ジャズ・オーケストラ
- 2024年 1月1日(月・祝) 第34回高崎元旦コンサート

スタジオシアター

- 4月9日(日) オールナイトニッポン55周年 記念公演 舞台『明るい夜に出かけて』
- 4月23日(日) リチャード・ボナ・アサンテ・トリオ
- 6月3日(土) 印象派 NÉO vol.4 4日(日) The Miracle of Pinocchio「ピノキオの偉烈」
- 6月9日(金) こまつ座『きらめく星座』
- 6月25日(日) 春風亭一之輔独演会
- 7月9日(日) 第21回高崎演能の会
- 2024年 2月 第22回高崎演能の会 3月 人形浄瑠璃・文楽

音楽ホール

群馬交響楽団×高崎芸術劇場

『GTシンフォニック・コンサート』

- 4月8日(土) vol.1 ザ・ベートーヴェン1
- 7月29日(土) vol.2 ザ・モーツァルト
- 9月22日(金) vol.3 宮川彬良のオーケストラ・パントマイム
- 11月3日(金・祝) vol.4 ザ・ベートーヴェン2
- 12月21日(木) vol.5 オペラ・ガラ・コンサート
- 2024年 3月9日(土) vol.6 映画音楽名作選

- 4月23日(日) ネマニャ・ラドコロヴィチ presents ドゥブル・サンス
- 8月9日(水) 大友直人Presents T-Shotシリーズ vol.10 水野優也 チェロ・リサイタル
- 9月15日(金) ミハイル・プレトニョフ(ピアノ)
- 9月22日(金) 大友直人Presents T-Mastersシリーズ vol.6 山崎伸子 チェロ・リサイタル
- 10月26日(木) 大友直人Presents T-Shotシリーズ vol.11 荒木奏美 オーボエ・リサイタル
- 11月16日(木) 大友直人Presents T-Shotシリーズ vol.12 北村明日人 ピアノ・リサイタル
- 12月9日(土) フォーレ四重奏団
- 2024年 1月27日(土) トン・コープマン(チェンバロ)
- 2月25日(日) 大友直人Presents T-Mastersシリーズ vol.7 伊藤藤 ピアノ・リサイタル

高崎芸術劇場
TAKASAKI CITY THEATRE

群馬交響楽団
首席ファゴット奏者
石川 了一

「ファゴットの魅力はなんと言ってもこの音色。ひょうきんな場面を表現する際によく登場する、そんな存在感が好き」。群馬交響楽団在籍40年の、首席ファゴット奏者・石川了一さんは瞳を輝かせる。父親がギターやマンドリンといった楽器の収集家だったこともあり、幼いころから楽器に囲まれた環境で育った。小学2年生からピアノを習い始め、中学校で吹奏楽部に入ってからには管楽器を演奏するようになった。

「愛するファゴットを
できるだけ長く吹き続けたい」



高校でも吹奏楽部に所属し、2年生のときに初めてファゴットを手にする。部内で唯一のファゴットパートに空きができたことがきっかけだった。それまではサクソフォンを担当

していたため、勝手も分からないままに、まず取り組んだのがリード作り。部室に落ちていたリードを削り直して吹いてはみたが、楽器の音と言えないようなものではなかった。独学で試行錯誤し、奏法や楽器の扱い等の技術を徐々に磨いていった。

楽団の首席ファゴット奏者として活躍し、幾多の音楽大学で後進の指導に当たっている。

そんな恩師との忘れられない思い出がある。大学4年生の夏に群響入団の内定を受け、初めて参加した「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」でのこと。オーブニングの演奏後、数日後に控えたモーツァルト八重奏曲で、セカンドファゴットとしての代理出演を急ぎよ頼まれた。ファーストは岡崎先生だった。時間の無い中、突然の演奏会に向け、先生と一緒に草津中学校の教室にこもって猛特訓に明け暮れた。あの苦しかった「幸せな時間」。師の熱いまなざしは今も脳裏に焼き付いている。

音楽の道に進むと決めたのは、高校3年生のとき。ピアノの先生の薦めで、武蔵野音楽大学で開かれた受験生のための冬季講習を受講した。そこで同世代のファゴット演奏者との出会い、後に切磋琢磨する間柄ともなる友となった。その友人の影響もあって武蔵野音楽大学に進学。群響への入団も、群馬出身だった大学の同級生からの強い薦めでオーディションを受けたことがきっかけ。かけがえない友との出会いが、音楽家への道筋を照らしてくれた。

「素晴らしい音響を持つこのホールに、群響の演奏がどう溶け合っているのか」が今後の課題であり、楽しみでもある。高崎芸術劇場での演奏に期待を寄せる石川さん。2024年3月で退団を迎えることから、後任となる人材のオーディションにも意欲的だ。退団後も1日数時間は楽器を触って、音を出したいと考えている。「一人のファゴット愛好家として、できるだけ長く吹き続けたい」とファゴット愛を語った。

敬愛する恩師との思い出

「私の音楽人生で最も影響を受けた人は、大学で出会った岡崎耕治先生。僕のような人間でもプロのオーケストラに入れるまでに育ててくれた恩師です。音楽に対して厳しく、教える能力に長けていた」。岡崎耕治氏は、長年にわたりNHK交響

石川 了一
Ryoichi Ishikawa

■出身 北海道
■入団 1982年4月

■最近の印象に残っている群馬交響楽団定期演奏会
初めて演奏したヴォーン・ウィリアムズ。曲の解釈が難しく、もう一度演奏する機会があれば、また違った景色が見えるのかもしれないという、一抹の未練も残る。(2022.5.14 第578回)

■好きなアーティスト
チェリスト・鳥羽咲音。群響高校音楽教室(2022.12.20)で共演。
■好きな作曲家
チャイコフスキー

